

(別記)

## 令和6年度本宮市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市の農業は、東日本大震災及び原発事故に伴い、安全性が確認された農産物であっても買い控えが起きるなど風評による大きな影響を受けており、震災以降に農業を辞めた農業者も少なくない。

また、米価についてはコロナ禍と比較し、若干上向いてきてはいるものの、人口減少による構造的な需要減少は今後も継続する見込みとなっており、米価の深刻な下落に直面している状況に変化はない。

この状況を踏まえ、効率的かつ安定的な農業経営を進めるためにも、農家の所得向上や意欲のある農業者への農地利用集積や、主食用米の販売による米価に依存した農業所得だけの取組みを避けることが必要とされている。しかし、畑地化を推進したいが、農業資材やほ場の条件などを考慮すると現状では推進が難しい。

さらに、農業従事者の高齢化が進んでおり、今後の農業を担っていく農業者及び営農組織等の育成が急務となっているため、市や農業委員会と連携して取組んでいく。

### 2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

#### (1) 適地適作の推進

本市の主力産業が水稻となっていることから、非主食用米を中心とした推進を図る。また、主食用米についても、令和4年度より地区のライスセンターへ色彩選別機の導入を進めてきたことから、所得向上のために色彩選別機の利用について周知する。

#### (2) 収益性・付加価値の向上

きゅうりの選果場が安達管内に開設されたため、需要があり、新規就農者でも比較的取組みやすい高収益作物であるきゅうりの推進を図る。

#### (3) 新たな市場・需要の開拓

令和4年度より酒造好適米の福乃香の作付けを行っており、引き続き作付け農家の増加に努める。またGAPの推進と併せて、福島県のブランド米である「福笑い」の作付けを行える農家の増加に努めるとともに、新市場開拓用米の作付け面積を増やしていく。

#### (4) 生産コストの低減

飼料用米の収益を上げるためには低コスト生産技術の導入や農地の集積・集約化が重要である。そのため、地区の営農組合やライスセンターを中心に飼料用米の規模拡大を図る。またプール育苗や、スマート農業を推進することで生産コストの低減を目指す。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

#### (1) 地域の農地の在り方

需要に応じた生産・販売を推進するにあたり、現在主食用米の需要に対して供給過多となっている。当協議会としては、主食用米からの転換が容易な飼料用米を中心と

した非主食用米への取組みを推進することで、需要に応じた生産・販売を目指していくこととする。

畑地化については、生産者に対して水田の利用状況や今後の意向についての調査を実施し、水田として利用する意向のない生産者については、畑地化に関する国の制度を周知し、要望があった場合は取組んでいくこととする。

#### (2) 水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

畑作物のみを生産し続けている水田については、畑地化支援を活用した畑地化や、水稻栽培を取り入れたブロックローテーションを推進する。

令和5年度の点検の結果、該当農地の確認に時間を要したため畑地化やブロックローテーションを具体的に推進できなかったため、今年度はより注視していく。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

需要に応じた売れる米づくりの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。また、安全・安心・おいしい米づくりを目指し、高品質と均一化を図り、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引を推進する。

### (2) 備蓄米

主食用米代替えとして地域における水稻面積の維持・拡大を図るうえで重要であり、引き続きJAと連携し、推進する。

### (3) 非主食用米

#### ア 飼料用米

主食用米の需要が減り続けている中、飼料用米を転作作物の中心作物に位置づける。

また、飼料用米の生産拡大にあたっては、主食用米の中で一般品種の推奨の他、特に多収品種を推奨し、効果的な肥培管理又は農薬の低減化により生産性向上とコストの低減化を図り、令和6年度には、156haの水田面積を目指す。

#### イ 米粉用米

現行の栽培面積を維持する。

#### ウ 新市場開拓用米

現行の栽培面積を維持する。

#### エ WCS用稲

実需者（地元畜産農家）との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

#### オ 加工用米

現行の栽培面積を維持する。

### (4) 麦、大豆、飼料作物

麦、飼料作物については、実需者との契約に基づき現行の作付面積を維持する。

また、大豆については、産地交付金を活用した生産面積の増加や排水対策若しくは有

機肥料の施肥を実施することで単収の増加を目指す。

(5) そば、なたね

そば、なたねについては、地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

油糧作物として期待されるなたねについては、原発事故後、営農を停止した農家にとって、営農再開の先駆けとなる作物として生産を推進し、産地交付金を活用し排水対策等により収量の安定化を図る。

(6) 地力増進作物

該当なし。

(7) 高収益作物

①野菜

産地交付金を活用し、地域の振興作物であるきゅうり、トマト、さやいんげん、ナス、ピーマン、ねぎを中心に生産拡大を目指す。

②花き・花木

産地交付金を活用してキクを中心に生産拡大を目指す。

③その他の高収益作物

産地交付金を活用して小豆の生産拡大を目指す。

**5 作物ごとの作付予定面積等**

～

**8 産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

(単位: ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	983.593	0.000	972.474	0.000	961.000	0.000
備蓄米	64.000	0.000	64.000	0.000	64.000	0.000
飼料用米	144.712	0.000	156.400	0.000	166.000	0.000
米粉用米	0.500	0.000	0.500	0.000	0.500	0.000
新市場開拓用米	2.396	0.000	2.396	0.000	3.396	0.000
WCS用稲	5.153	0.000	5.153	0.000	5.153	0.000
加工用米	0.163	0.000	0.163	0.000	0.163	0.000
麦	0.507	0.000	0.507	0.000	0.507	0.000
大豆	2.933	0.000	3.122	0.000	3.122	0.000
飼料作物	17.447	0.000	29.597	0.000	29.597	0.000
・子実用とうもろこし	0.057	0.000	0.057	0.000	0.057	0.000
そば	0.377	0.000	1.502	0.000	1.502	0.000
なたね	0.100	0.000	0.100	0.000	0.100	0.000
地力増進作物	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
高収益作物	33.675	0.000	33.319	0.000	34.119	0.000
・野菜	28.046	0.000	27.726	0.000	28.326	0.000
うち高収益作物助成対象野菜	9.195	0.000	9.195	0.000	9.795	0.000
きゅうり	1.838	0.000	1.838	0.000	1.938	0.000
トマト	4.056	0.000	4.056	0.000	4.156	0.000
ナス	0.638	0.000	0.638	0.000	0.738	0.000
ピーマン	0.122	0.000	0.122	0.000	0.222	0.000
さやいんげん	0.258	0.000	0.258	0.000	0.358	0.000
ねぎ	2.283	0.000	2.283	0.000	2.383	0.000
うち一般野菜等作物助成対象野菜	18.851	0.000	18.531	0.000	18.531	0.000
アスパラガス	2.186	0.000	2.186	0.000	2.186	0.000
いちご	0.228	0.000	0.228	0.000	0.228	0.000
枝豆	0.116	0.000	0.116	0.000	0.116	0.000
かぼちゃ	5.687	0.000	5.687	0.000	5.687	0.000
キャベツ	0.798	0.000	0.771	0.000	0.771	0.000
さといも	0.898	0.000	0.898	0.000	0.898	0.000
しゅんぎく	0.174	0.000	0.174	0.000	0.174	0.000
すいか	0.169	0.000	0.169	0.000	0.169	0.000
ニラ	0.246	0.000	0.246	0.000	0.246	0.000
ブロッコリー	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
マコモダケ	0.174	0.000	0.138	0.000	0.138	0.000
山芋	0.103	0.000	0.103	0.000	0.103	0.000
食用ばれいしょ	3.343	0.000	3.244	0.000	3.244	0.000
きのこ類	0.459	0.000	0.459	0.000	0.459	0.000
その他の野菜	4.270	0.000	4.112	0.000	4.112	0.000
・花き・花木	4.714	0.000	4.714	0.000	4.814	0.000
キク	0.668	0.000	0.668	0.000	0.768	0.000
その他の花き・花木	4.046	0.000	4.046	0.000	4.046	0.000
・果樹	0.475	0.000	0.475	0.000	0.475	0.000
・その他の高収益作物	0.266	0.000	0.266	0.000	0.366	0.000
小豆	0.214	0.000	0.214	0.000	0.314	0.000
その他の高収益作物	0.052	0.000	0.052	0.000	0.052	0.000
その他	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
畑地化	13.608	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 （一般品種） （基幹作物）	飼料用米推進助成	飼料用米（一般品種） 取組面積 10aあたりの生産費	（令和5年度） 94ha 60,000円	（令和8年度） 114ha 50,000円
2	飼料用米 （多収品種） （基幹作物）	飼料用米（多収品種）推進助成	飼料用米（多収品種） 取組面積 単収 10aあたりの生産費	（令和5年度） 50.34ha 670kg/10a 77,000円	（令和8年度） 52ha 672kg/10a 73,000円
3	大豆（基幹作物）	大豆助成	大豆取組面積 単収	（令和5年度） 1.9ha 330kg/10a	（令和8年度） 2.8ha 330kg/10a
4	きゅうり・トマト（ミニトマト、加工トマト含）・ナス・ピーマン・さやいんげん・ねぎ （基幹作物）	高収益作物助成	高収益作物 作付面積	（令和5年度） 5.57ha	（令和8年度） 6ha
5	飼料用米の生産ほ場の稲わら （基幹作物）	わら利用（耕畜連携）	飼料用米の稲わら利用面積	（令和5年度） 2.72ha	（令和8年度） 3ha
6	野菜 花き その他作物 公表用別紙のとおり （基幹作物）	一般野菜等作物助成	一般野菜等作物 作付面積	（令和5年度） 野菜：4.28ha 花き：0.6ha その他：0.1ha 合計：4.98ha	（令和8年度） 野菜：4.8ha 花き：0.65ha その他：0.1ha 合計：5.55ha

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福島県

協議会名:本宮市地域農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	飼料用米推進助成	1	6,000	飼料用米(一般品種)(基幹作物)	省力栽培に取組んだ面積に対する支援
2	飼料用米(多収品種)推進助成	1	6,000	飼料用米(多収品種)(基幹作物)	省力栽培に取組んだ面積に対する支援
3	大豆助成	1	3,000	大豆(基幹作物)	品質・生産性を向上する栽培に取組んだ面積に対する支援
4	高収益作物助成	1	8,000	きゅうり・トマト・(ミニトマト・加工トマト含)・ナス・ピーマン・さやいんげん・ねぎ (基幹作物)	作付面積に応じて支援
5	わら利用(耕畜連携)	3	3,000	飼料用米の生産ほ場の稲わら(基幹作物)	生産性等を向上する栽培に取組んだ作付面積に応じて支援
6	一般野菜等作物助成	1	3,000	野菜、花き、その他作物 (公表用別紙のとおり) (基幹作物)	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください

(公表用別紙)

区分	対象作物
野菜	アスパラガス いちご 枝豆 かぼちゃ キャベツ さといも しゅんぎく すいか ニラ ブロッコリー マコモダケ やまいも 食用ばれいしょ きのこと類(しいたけ・しめじ・なめこ)
花き	キク
その他の 高収益作物	小豆